

◎ 指示があるまで開かないこと。

(令和4年2月10日 13時55分～15時15分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は55問で解答時間は正味1時間20分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
 - (1) (例1)、(例2)及び(例3)の問題では1から4までの4つの選択肢、もしくは1から5までの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例1)、(例2)では1つ、(例3)では2つ選び答案用紙に記入すること。
 なお、(例1)、(例2)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。(例3)の質問には、1つ又は3つ以上解答した場合は誤りとする。

(例1)

101 助産業務を行うことが可能となるのはどれか。

1. 国家試験受験日以降
2. 合格発表日以降
3. 合格証書受領日以降
4. 助産師籍登録日以降

正解は「4」であるから答案用紙の④をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	①	②	③	④
		↓		
101	①	②	③	●

答案用紙②の場合、

101		101
①		①
②		②
③	→	③
④		●

(例 2)

102 保健師助産師看護師法が制定された年はどれか。

1. 明治 32 年(1899 年)
2. 大正 4 年(1915 年)
3. 昭和 23 年(1948 年)
4. 昭和 43 年(1968 年)
5. 平成 13 年(2001 年)

正解は「3」であるから答案用紙の③をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、					
102	①	②	③	④	⑤	102	102	①	①	
			↓			①		②	②	
102	①	②	●	④	⑤	②		③	→	●
						③		④	④	
						④		⑤	⑤	
						⑤				

(例 3)

103 助産師籍に登録されるのはどれか。2つ選べ。

1. 生年月日
2. 受験年月日
3. 卒業年月日
4. 就業年月日
5. 登録年月日

正解は「1」と「5」であるから答案用紙の①と⑤をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、					
103	①	②	③	④	⑤	103	103	①	●	
			↓			①		②	②	
103	●	②	③	④	●	②		③	→	③
						③		④	④	
						④		⑤	●	
						⑤				

(2) 計算問題については、に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4)

104 50床の病棟で入院患者は45人である。

この病棟の病床利用率を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数点以下第1位を四捨五入すること。

解答：①②%

- | | |
|---|---|
| ① | ② |
| 0 | 0 |
| 1 | 1 |
| 2 | 2 |
| 3 | 3 |
| 4 | 4 |
| 5 | 5 |
| 6 | 6 |
| 7 | 7 |
| 8 | 8 |
| 9 | 9 |

正解は「90」であるから①は答案用紙の(9)を②は(0)をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

①	0	1	2	3	4	5	6	7	8	●	
104	②	●	1	2	3	4	5	6	7	8	9

答案用紙②の場合、

①	②
104	
0	●
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
●	9

- 1 保健師助産師看護師法の平成 14 年(2002 年)の改正内容はどれか。
 1. 助産師に名称変更された。
 2. 助産師の名称独占が明確化された。
 3. 行政処分に免許の取り消しが追加された。
 4. 看護師国家試験合格が助産師免許取得の要件となった。

- 2 日常的な喫煙がリスク因子となるのはどれか。
 1. 子 癩
 2. 早 産
 3. 妊娠貧血
 4. 子宮復古不全

- 3 性器ヘルペスを合併した妊婦で初感染の場合、正しいのはどれか。
 1. 出生した新生児は結膜炎を発症する。
 2. 単純ヘルペスウイルスⅡ型(HSV-2)が多い。
 3. 発症後 1 か月以内の分娩では帝王切開術を選択する。
 4. 母子感染の感染経路は産道感染よりも経胎盤感染が多い。

- 4 世界保健機関〈WHO〉の定める精子濃度の基準値は()万/mL 以上である。
()に入るのはどれか。
 1. 1.5
 2. 15
 3. 150
 4. 1,500

- 5 抗インスリン作用を有するのはどれか。
1. エストロゲン
 2. プロゲステロン
 3. hCG〈ヒト絨毛性ゴナドトロピン〉
 4. hPL〈ヒト胎盤性ラクトゲン〉
- 6 妊娠中期以降における羊水の機能で正しいのはどれか。
1. 臍帯下垂の予防
 2. プロラクチンの産生
 3. 胎児の運動空間の確保
 4. 胎盤でのガス交換の補助
- 7 乳汁分泌を抑制するための薬剤の使用が禁忌となるのはどれか。
1. Basedow〈バセドウ〉病
 2. 妊娠高血圧症候群
 3. 産後うつ病
 4. 妊娠糖尿病
- 8 更年期女性の尿失禁で正しいのはどれか。
1. 腹圧性尿失禁には膀胱訓練の指導を行う。
 2. 低用量の副腎皮質ステロイドが有効である。
 3. 腹圧性尿失禁には抗コリン薬が有効である。
 4. 切迫性尿失禁よりも腹圧性尿失禁の方が多い。

9 分娩期における子宮頸管の状態ですべて正しいのはどれか。

1. 軟産道を構成する組織の中で腔入口の次に抵抗が大きい。
2. 分娩進行中に後唇側の開大は遅れることが多い。
3. 初産婦は外子宮口が早く開大する。
4. 内子宮口側が広がり展退が進む。

10 正常分娩において、胎盤が剥離していると判断できるのはどれか。

1. 恥骨結合上の下腹部を圧迫して臍帯が腔内に引き込まれるのを確認した時点
2. 腔口近くで臍帯を挟んだコッヘルが手前に大きく下がってきた時点
3. 腔から暗赤色の血液の流出が確認されて5分が経過した時点
4. 子宮底部が臍高で軟らかく触知できた時点

11 Aさん(22歳、初産婦)は妊娠41週2日で陣痛発来し、分娩所要時間18時間で体重3,950gの女児を出産した。会陰裂傷第2度、分娩時出血量は350mL。分娩後2時間で、子宮底の高さは臍下2横指で硬く触れた。Aさんが尿意を訴えたためトイレ歩行を試みると、恥骨部に強い痛みを訴えて歩行できず、車椅子で帰室した。

帰室後のAさんへの助産師の説明ですべて正しいのはどれか。

1. 「初めての歩行のときに生じる一時的な痛みです」
2. 「骨盤ベルトの装着をしましょう」
3. 「産後の子宮収縮に伴う痛みです」
4. 「母乳栄養は中止しましょう」

12 Aさん(19歳、初産婦)は妊娠22週のとくに初めて産婦人科病院を受診した。妊娠初期にパートナー(17歳、高校生)から支援できないと告げられ、その後連絡をとっていない。実父とは死別しており、実母とは良好な関係が築けず疎遠だという。Aさんは妊婦健康診査の予約日に来院しないこともあり、助産師は関係機関と連携し支援していた。妊娠38週に正常分娩し、母子ともに経過は良好で、産褥4日に助産師から退院指導を行うことになった。

このときの助産師の対応として適切なのはどれか。

1. 実母に支援を依頼するようAさんに促す。
2. 支援を依頼するためパートナーに連絡する。
3. 市町村の保健師に退院指導への同席を依頼する。
4. 育児サロンを主催している住民に退院時の迎えを依頼する。

13 在胎39週、出生体重3,100gの正常新生児へのビタミンK₂シロップの用量で正しいのはどれか。

1. 0.2 mg
2. 2 mg
3. 20 mg
4. 200 mg

14 日齢1の新生児の清潔ケアで沐浴と比較したドライテクニック法の特徴で正しいのはどれか。

1. 低体温になりやすい。
2. 臍帯脱落の時期が遅れる。
3. 胎脂を残すことができる。
4. 更衣は2日に1回に減らせる。

15 生後 24 時間の新生児の嘔吐で生理的なのはどれか。

1. 胆汁性嘔吐
2. 噴水状嘔吐
3. 泡沫状嘔吐
4. 羊水様の嘔吐

16 在胎 38 週 0 日、2,860 g で出生した男児。母乳栄養のみである。日齢 3 の体重は 2,520 g であった。

児の状態で介入が必要な所見はどれか。

1. 哺乳間隔 6 時間
2. 排尿回数 8 回/日
3. 排便回数 6 回/日
4. 総ビリルビン値 10 mg/dL

17 経過が良好である産褥早期の褥婦に対し、母子の愛着形成を促進するために助産師が行う支援として最も適切なのはどれか。

1. 出産体験の振り返り
2. うつ病スクリーニングの実施
3. 祖父母との良好な関係構築の支援
4. ファミリー・サポート・センター事業の紹介

- 18 日本の母子健康手帳の改正した年とその内容の組合せで正しいのはどれか。
1. 昭和 23 年(1948 年) ——— 妊産婦手帳制度が始まった。
 2. 昭和 33 年(1958 年) ——— 母子健康手帳と改称された。
 3. 昭和 40 年(1965 年) ——— 妊婦 1 人につき 1 冊から子ども 1 人につき 1 冊に変更された。
 4. 平成 24 年(2012 年) ——— 便色カードが追加された。

- 19 高校 1 年生を対象に健康教育を行うこととした。

健やか親子 21(第 2 次)の指標を踏まえた内容で優先度が高いのはどれか。

1. 食 育
2. う歯の予防
3. 肥満の予防
4. 性感染症の防止

- 20 A さん(28 歳)は無月経を主訴に産婦人科医院を受診し、妊娠の診断を受けた。助産師が次回の妊婦健康診査までに母子健康手帳の交付を受けるよう説明したところ、A さんから公費の助成が受けられる妊婦健康診査について質問があった。

助産師の説明で正しいのはどれか。

1. 「血液検査を毎行います」
2. 「保健指導の費用は自己負担です」
3. 「血液検査の項目には HIV 抗体検査が含まれています」
4. 「妊娠初期は 2 週に 1 回の妊婦健康診査が助成の対象になります」

21 死産に関わる届出について正しいのはどれか。

1. 死産届は 24 時間以内に提出しなければならない。
2. 死産届は死産のあった場所の都道府県知事に提出する。
3. 死産の分娩に立ち会った場合は死胎検案書を作成する。
4. 死産児を検案して異常を認めた場合は、所轄警察署に届け出る。

22 平成 30 年度(2018 年度)の雇用均等基本調査において、女性の育児休業取得率に最も近いのはどれか。

1. 50 %
2. 65 %
3. 80 %
4. 95 %

23 胎児期の性器形成で正しいのはどれか。

1. 男女ともに SRY 遺伝子を持つ。
2. 尿生殖溝の癒合にはアンドロゲンが関わる。
3. Müller〈ミュラー〉管が精巣上体に分化する。
4. 卵管、子宮および膣は妊娠 22 週ころに形成される。
5. Wolff〈ウォルフ〉管の癒合部分が子宮の一部になる。

24 新生児の皮膚の成熟度を評価するために Dubowitz 法を用いた。

項目と所見の組合せでより成熟度が高いのはどれか。

1. 色 ————— 暗赤色
2. 構造 ————— 羊皮紙様
3. 足底部 ————— しわがない
4. うぶ毛 ————— 背中全体に多数
5. 透明度 ————— 腹壁に血管が見える

25 1 か月児健康診査時の予防接種に関する保健指導で正しいのはどれか。

1. 「四種混合ワクチンは生後 2 か月から接種が可能です」
2. 「インフルエンザ菌 b 型 (Hib) ワクチンは定期接種です」
3. 「生ワクチンと不活化ワクチンの同時接種はできません」
4. 「初回肺炎球菌ワクチン接種後の発熱は経過観察可能です」
5. 「不活化ワクチン接種後 27 日間は他のワクチンは接種できません」

26 妊娠 38 週の初産婦の妊婦健康診査で、助産師外来の担当助産師が内診を行った。

内診指を膣の後壁に沿って挿入したが子宮口になかなか届かず、奥まで入れてようやく子宮口に届いた。子宮口は鼻翼のように硬く 1.5 cm 開大しており、展退度は 40% であった。児頭の先進部は坐骨棘より 1 cm 上方に触れた。羊水の流出は認めなかった。

このときの Bishop (ビショップ) スコアはどれか。

1. 0 点
2. 2 点
3. 4 点
4. 7 点
5. 9 点

27 Aさん(35歳、1回経産婦)は陣痛発来後3時間の経過で4,200gの男児を経膣分娩した。会陰切開の必要はなく会陰裂傷もなかった。分娩後1時間のバイタルサインは脈拍70/分、整、血圧120/80mmHgであった。分娩後2時間の時点で脈拍100/分、整、血圧80/60mmHgで「少し前から肛門の奥あたりがとても痛くなってきた」と訴えた。子宮底部は臍下4横指、子宮収縮は良好であった。Aさんは苦悶様表情を浮かべ、額に冷汗が認められた。出血量は正常範囲内であった。

助産師の対応で正しいのはどれか。

1. 子宮底の輪状マッサージを実施する。
2. 子宮収縮薬投与の準備をする。
3. 末梢静脈路確保の準備をする。
4. トイレ歩行を促す。
5. 左側臥位にする。

28 出生後に新生児への特異的ガンマグロブリン及びワクチンの投与による母子感染予防が実施される感染症の原因となる病原体はどれか。

1. クラミジア
2. B型肝炎ウイルス
3. C型肝炎ウイルス
4. サイトメガロウイルス
5. ヒト免疫不全ウイルス(HIV)

29 排卵誘発薬の使用による卵巣過剰刺激症候群のリスク因子となるのはどれか。

2つ選べ。

1. 若年
2. 肥満
3. 流産の既往
4. 薬剤アレルギーの既往
5. 多嚢胞性卵巣症候群の合併

30 妊娠に伴う変化で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 心拍出量が増加する。
2. 機能的残気量が減少する。
3. 血中中性脂肪濃度が減少する。
4. 末梢血中白血球数が減少する。
5. 血清アルブミン濃度が増加する。

31 新生児の体温調節で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 低出生体重児は褐色脂肪組織が多い。
2. 発汗機能が未熟で低体温になりやすい。
3. 熱産生は主に筋収縮による震えによって行う。
4. 代謝性アシドーシスの原因として低体温がある。
5. 体表面積が体積に比べて大きく熱喪失が大きい。

32 双胎妊娠について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 二卵性双胎の頻度は遺伝素因が関係する。
2. 二卵性双胎の約75%が二絨毛膜性である。
3. 双胎は単胎に比べて妊娠高血圧症候群になりやすい。
4. 一絨毛膜双胎は二絨毛膜双胎に比べて周産期死亡率が低い。
5. 二絨毛膜双胎は一絨毛膜双胎に比べて双胎間輸血症候群を生じやすい。

33 助産所において、分娩期に緊急に医療機関への母体搬送の適応となるのはどれか。2つ選べ。

1. 前期破水後 12 時間経過しても陣痛が発来しない。
2. 分娩第 1 期の母体の体温が 38.5℃である。
3. 分娩第 2 期において、2 時間以上分娩が進行せず児の娩出が期待できない。
4. 会陰裂傷第 1 度である。
5. 分娩後 2 時間までの出血量が 400 mL である。

34 生後 15 分の新生児。在胎 39 週 0 日、Apgar〈アプガー〉スコア 1 分後 8 点、5 分後 8 点であった。新生児蘇生法〈NCPR〉としてルーチンケアを行った後、インフアントラジアントウォーマー下で観察を継続していたところ、生後 12 分ころから呻吟と陥没呼吸が出現したため、改めて気道開通の処置を行ったが呼吸状態は増悪傾向である。バイタルサインは体温(腋窩温)36.8℃、呼吸数 50/分、心拍数 170/分、経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO₂〉87% であった。

初期対応の選択として適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 気管挿管
2. 胸骨圧迫
3. 酸素投与
4. バッグ・マスク換気
5. 持続的気道陽圧〈CPAP〉

35 助産師が行えるのはどれか。2つ選べ。

1. 助産師の介助なしに生まれた児の出生証明書の交付
2. 電車内で出産を介助した児の出生証明書の交付
3. 出生直後に死亡した児の死亡診断書の交付
4. 母性健康管理指導事項連絡カードの記載
5. 子宮収縮薬の処方箋の交付

次の文を読み 36～38 の問いに答えよ。

A さん(45 歳、女性)は 1 年ほど前から月経周期が不整となり、半年くらい前から不眠や頭痛があり婦人科を受診した。A さんは「眠れないのは更年期のせいではないかと夫に言われ受診しました。もうそんな年齢だと思えば、一層心がふさぎ込んでしまいます」と話した。医師は更年期障害の可能性を話し、診断のための検査を行うと A さんに伝えた。

36 助産師は A さんの支援に向けて初回の面接を行うことにした。

このときに助産師が収集する情報で最も優先するのはどれか。

1. 性生活の状況
2. 治療に対する夫の考え
3. A さんが自覚している症状
4. 加齢による容姿の変化への不安

37 A さんは更年期障害と診断され、漢方薬による治療を開始することになった。

また、診断の過程で行った検査で、骨量は正常であったが大腿骨頸部の骨密度の低下がみられたため、保健指導を行うことになった。A さんは、「まだよく眠れないこともあります。最近、運動らしい運動はしていません」と話した。

このときの A さんに対する指導内容で正しいのはどれか。

1. 「蛋白質の摂取は制限しましょう」
2. 「昼間でも眠れるときに眠るようにしましょう」
3. 「運動は短期間に集中して行うようにしましょう」
4. 「カルシウムを 1 日 800 mg 摂るようにしましょう」
5. 「リンを多く含む食品を積極的に摂るようにしましょう」

38 Aさんは、3か月の通院を経て症状の改善を自覚していた。ある日の婦人科外来受診日に、「月経は不規則ですが、少し元気もでてきた気がして、夫とは日常的に性生活を行うようになっていきます。以前はピルを使用したりもしていましたが、もう更年期だし、避妊はどうすればよいでしょうか」と話した。

このときのAさんに助産師が行う説明で適切なのはどれか。

1. 「オギノ式避妊法を活用しましょう」
2. 「性交渉は避けるのが望ましいです」
3. 「ピル使用の可否について医師に相談してみましょう」
4. 「射精の直前にコンドームを装着するようにしましょう」

次の文を読み 39～41 の問いに答えよ。

A さん(30 歳、初産婦)は無痛分娩を希望している。妊娠 39 週 4 日、陣痛発来にて入院した。分娩監視装置が装着され、陣痛間欠 6～8 分、陣痛発作 30 秒、児心音は正常であった。A さんは「痛みが増してきたので麻酔をして欲しい」と話した。助産師が A さんに自動血圧計を装着し、医師が側臥位の A さんに硬膜外麻酔用カテーテル挿入後に麻酔薬を注入した。

39 麻酔開始 30 分後に、胎児の一過性徐脈が認められた。A さんに痛みの訴えはなく、下肢の感覚鈍麻はあるが動きは良好である。

このときの A さんへの初期対応で適切なのはどれか。

1. 内診をする。
2. 仰臥位にする。
3. 血圧を確認する。
4. 上肢の動きを確認する。

40 その後、胎児の徐脈は消失して、硬膜外麻酔開始から 4 時間が経過した。硬膜外カテーテルから持続的に局所麻酔薬の投与が行われている。A さんの陣痛が弱く、分娩進行が停滞していると判断され、子宮収縮薬の点滴が開始された。A さんは「お腹の下のほうが少し痛くなってきた」と助産師に伝えた。A さんのバイタルサインに異常はなく、胎児の心拍も正常である。

このときの助産師の対応で適切なのはどれか。

1. A さんの痛みの程度を痛みスケールで評価する。
2. 子宮収縮薬の効果なので様子を見るよう伝える。
3. 子宮収縮薬の中止を医師に相談する。
4. A さんの体位を四つん這いにする。

41 子宮口が全開大してから2時間30分が経過した。陣痛間欠2分、陣痛発作60秒。Aさんは、「お腹の張る感じはわかるが、いきみたい感じはわからない」と話す。児の心拍は正常であり、下降度はStation +3である。

このときの助産師の最初の対応で適切なのはどれか。

1. 硬膜外麻酔の中止を医師に相談する。
2. 吸引分娩の準備をする。
3. 努責の方法を指導する。
4. 飲水を促す。

次の文を読み 42～44 の問いに答えよ。

Aさん(29歳、経産婦)は妊娠38週0日。不規則な子宮収縮を主訴に午後2時に来院した。妊娠経過は良好であった。児の推定体重は3,400g。胎児心拍数陣痛図では陣痛間欠8分、発作40秒。胎児心拍数基線140bpm、基線細変動は正常で、一過性頻脈があり、一過性徐脈は出現していない。血性分泌物はない。陣痛開始しており入院となった。胎児心音は、母体の右側、臍棘線上中央で聴取できた。内診所見は、子宮口5cm開大、展退度50%、Station-1。矢状縫合は横径に一致し、小泉門は9時方向、同じ高さで大泉門が3時方向に触知できた。

42 胎児の胎位胎向で正しいのはどれか。

1. 第1後頭位
2. 第1前頭位
3. 第2後頭位
4. 第2前頭位

43 陣痛開始から6時間が経過した。陣痛間欠7分、発作30秒。胎児心拍数基線140bpm、基線細変動20bpmである。陣痛発作時に苦悶様の表情がみられたため内診を実施したところ、子宮口6cm開大、展退度60%、Station-1。矢状縫合は右斜径に一致し、小泉門が先進し、11時方向に触れた。発作時に胎胞が触れるが緊満感は乏しい。膣から血性分泌物が少量確認できた。

この所見から考えられる状態はどれか。

1. 回旋異常
2. 早期破水
3. 微弱陣痛
4. 胎児機能不全

44 陣痛開始から10時間が経過した。陣痛間欠6分、発作40秒。内診所見は、子宮口8cm開大、展退度80%、Station+1。胎児心拍数陣痛図では胎児心拍数基線140bpm、基線細変動6~25bpm。最下点100bpm、回復まで20秒の変動一過性徐脈が2回みられた。Aさんは「昨夜からあまり眠れていない」と話し、疲れた様子である。

助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 経過観察する。
2. 院内の階段昇降を促す。
3. 帝王切開術の準備をする。
4. 子宮収縮薬の使用を医師に相談する。

次の文を読み 45～47 の問いに答えよ。

Aさん(32歳、初産婦)は人工授精で妊娠した。妊娠初期に頭殿長により予定日が決定された。妊娠経過は良好。妊娠40週6日、妊婦健康診査のため産婦人科医院を定期受診した。身長160cm、体重65kg(非妊時体重55kg)、血圧120/75mmHg。尿蛋白(-)、尿糖(-)。腹囲90cm、子宮底長34cm。Hb11.0g/dL、ヘマトクリット35%、白血球10,000/ μ L。胎児推定体重2,800g、AFI15。胎児心拍数陣痛図で子宮収縮3回/40分、胎児心拍数基線130bpm、基線細変動正常、一過性頻脈4回/40分、モニタリング中に最下点120bpm、持続10秒の心拍変動が1回あった。胎児心拍モニタリング中に胎動を10回自覚するのに要した時間は15分であった。

45 現時点の妊娠経過のアセスメントで正しいのはどれか。

1. 正 常
2. 胎動減少
3. 羊水過多
4. 胎児機能不全
5. 白血球の異常増多

46 Aさんは助産師に「予定日を1週間過ぎましたが大丈夫でしょうか。心配になってきました」と相談してきた。

助産師の説明で正しいのはどれか。

1. 「最終月経から算定した妊娠週数に変更します」
2. 「さらに赤ちゃんが育つので安産になります」
3. 「週2回妊婦健康診査に来てください」
4. 「できるだけ安静にしてください」

47 妊娠 41 週 5 日。妊婦健康診査で母児の状態に異常はない。医師に分娩誘発を勧められた Aさんは助産師に「自然に陣痛がくるのを待つことはよくないのでしょうか」という。

助産師の説明で適切なのはどれか。

1. 「妊娠 42 週以降になると赤ちゃんの状態が悪くなるリスクがあります」
2. 「分娩誘発を待ってもらえないか医師に相談しましょう」
3. 「今後、Aさんの血圧が上がってくる心配があります」
4. 「早く産んでしまったほうが楽になりますよ」

次の文を読み 48～50 の問いに答えよ。

Aさん(42歳、初産婦)は妊娠27週0日に自宅で突然、破水し、産婦人科病棟に入院した。入院の翌日、胎児心拍数陣痛図で高度遅発一過性徐脈を認め、緊急帝王切開術による出産となった。なお、経過中、羊水混濁は認められなかった。児の出生体重は1,051g。Apgar〈アプガー〉スコアは1分後3点、5分後7点。手術室で気管挿管を伴う新生児蘇生術を受けて全身状態は落ち着き、NICUに収容されて人工呼吸器管理を開始した。生後1時間のバイタルサインは体温(直腸温)35.8℃、呼吸数50/分、心拍数140/分、血圧40/28mmHg、経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO₂〉92%であった。また、出生後排尿排便は認められていない。

48 生後1時間での児の評価として当てはまるのはどれか。

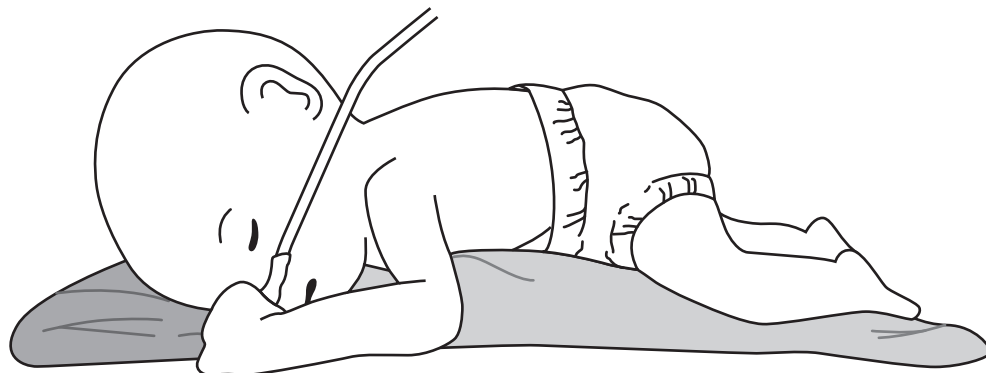
1. 頻脈
2. 乏尿
3. 多呼吸
4. 低体温
5. イレウス

49 生後12時間が経過した。保育器内で人工呼吸器管理を行っていたところ、突如、呼吸運動の停止に伴い経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO₂〉低下と徐脈を認める発作が出現した。皮膚刺激で速やかに改善するものの、同様の発作が1時間に5、6回の頻度で認められた。その際のバイタルサインは、体温(腋窩温)36.8℃、呼吸数70/分、心拍数160/分、血圧45/30mmHg、経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO₂〉95%であった。

鑑別すべき疾患はどれか。

1. 敗血症
2. 壊死性腸炎
3. 未熟児網膜症
4. 胎便吸引症候群

50 日齢14。保育器内で経鼻ハイフローセラピー(吸入酸素濃度21%)を行い、輸液と経管栄養を併用されている。現在の児の姿勢を図に示す。児は少し落ち着かない様子で体動が見られる。



児のポジショニングを整える際に行うべき対応はどれか。

1. 頭枕を取り除く。
2. 顔面を中間位に向ける。
3. 上肢を上方に伸展させる。
4. 体幹を伸展させる。
5. 股関節を屈曲させる。

次の文を読み 51～53 の問いに答えよ。

A さん(33 歳、3 回経産婦)はこれまで病院で出産しており、妊娠や分娩経過は順調であった。A さんは、妊娠 18 週 2 日に自宅分娩を扱う開業助産師を初めて受診した。「今回は可能であれば自宅で出産し、家族みんなで経験を分かち合いたと思います」と話し、自宅での出産を希望した。今回の妊娠経過も順調である。A さんは夫(40 歳、自営業)と子どもとの 5 人暮らしである。

51 A さんと会った際の助産師の最初の対応として適切なのはどれか。

1. 嘱託医療機関での妊婦健康診査の実施時期について説明する。
2. 自宅分娩に対する家族の同意の有無を確認する。
3. 自宅分娩の予約の手続きを行う。
4. 自宅分娩の費用を説明する。

52 A さんの自宅は都市郊外にあるアパートの 2 階で、間取りは居室 3 部屋と台所である。夫は自宅で仕事を行っており、育児には協力的である。

自宅分娩のために助産師が確認すべき内容で適切なのはどれか。

1. 分娩時の A さんの子どもの預け先の確保
2. A さんの自宅で助産師が待機する部屋の確保
3. 分娩時に支援を依頼する近隣の助産師の確保
4. 分娩時に A さんの自宅に往診する産科医の確保
5. 助産師の A さんの自宅までの移動時間が 2 時間以内であること

53 Aさんの妊娠経過は順調であった。妊娠39週6日、午前10時に陣痛が発生したと助産師に連絡があり、助産師はすぐに訪問した。到着時の内診所見は、子宮口6cm開大、展退度80%、Station±0。陣痛発作時に軽い努責感がある。胎児心拍数陣痛図で、陣痛間欠3分、陣痛発作45秒、胎児心拍数基線120bpm、基線細変動正常、直近の陣痛時に160bpmまでの一過性頻脈が1回みられた。

この時点での助産師の対応として適切なのはどれか。

1. Aさんに努責を促す。
2. 嘱託医師に報告する。
3. そのまま経過観察する。
4. 末梢静脈の血管確保を行う。

次の文を読み 54、55 の問いに答えよ。

A さん(29 歳、初産婦)は妊娠 28 週 1 日に間欠的な下腹部の鈍痛と赤茶色の帯下の出現を自覚した。かかりつけの産婦人科病院を緊急受診したところ、頸管長の短縮が確認されて切迫早産の診断で入院となった。子宮収縮抑制薬の点滴静脈内注射が開始された。

54 妊娠 28 週 3 日、朝方から A さんは体温 38.2℃の発熱を生じて、子宮収縮が次第に強まり子宮収縮抑制薬を増量しても収縮が治まらなかった。胎児の胎位は骨盤位で、胎児心拍数陣痛図では胎児心拍数基線は 175 bpm で基線細変動が減少していた。血液検査の結果は白血球数 21,000/ μ L、CRP 6 mg/dL であった。

A さんに対するアセスメントで正しいのはどれか。

1. 白血球の増加は子宮収縮薬の副作用である。
2. 子宮内に感染を生じている可能性が高い。
3. 胎児の well-being に問題はない。
4. 骨盤位が切迫早産の原因である。

55 その日の夜間に、A さんは帝王切開術による分娩となった。術後 3 日、術後経過は順調で、A さんは乳房の軽度緊満感を自覚している。A さんの児の状態も安定している。助産師は A さんに母乳栄養に関する指導を行うことにした。

A さんへの説明内容で適切なのはどれか。

1. 搾乳した母乳は常温で保存する。
2. 本日から直接授乳が可能である。
3. 乳頭刺激は 1 日 1 回の頻度にする。
4. 母乳は壊死性腸炎の予防に有効である。

